

範囲に大量に繁茂していた。③ A点に少しとB点に多く繁茂しているが、桜川の送電線より上流ではほとんど見られない。

◇ トチカガミ 桜川、霞ヶ浦とも少し見られた程度でありあまり目立たなかった。②ヒシとほぼ同じ範囲内に大きな群落がいたる所で見られた。③B点より少し上流の南岸に小群落があるだけである。

◇ カガブタ ①A点に多く見られた。②A点に少しあることがわかったがくわしくは調査できなかった。③A点に少しとB点にかなり多く見られる。

◇ アサザ ①A点に多く見られた。②どの場所でも見られなかった。③どの場所にも全く見られない。

◇ ハゴロモモ ①A点で少し見られたが他の場所にはほとんどなかった。②桜川では河口から桜川橋までの間の岸近くに多く見られ、霞ヶ浦ではD点に少し見られた。③桜川では②と大体同じ状態であるが、D点は未確認。

◇ イバラモ ①昭和三十一年当時、D点にかなり大量に繁茂しているのが見られ、C点に少し見られたが、

A点にはなかった。②三十四年当時、D点は前とほぼ同じ状態でC点に大群落ができており、A点にもかなり多く生育しているのが見られた。③四十六年 どの場所でも発見できなかった。④今年、③と同様全く見ることができない。

◇ その他の植物 以上の9種類以外の植物については特に目立つ変化は認められないが、クロモ、ヒロハノエビモその他沈水性植物が全体としてやや少くなり特に桜川の河口附近(A点)で著しく少くなっている。以上のような植物界の変遷がどのようにして起ったかについては軽々しく論じることが出来ませんが、少くとも次のようなことが原因としてあげられると思います。

(一) 水の汚濁による透明度の低下

(二) 各種の汚染物質による水質の変化(富栄養化も含)

(三) 河川改修工事による川幅、水深、流速等の変化

(四) 種類によって違う植物自身の繁殖力その他の性質  
これらの要因と前記十種類ばかりの植物の消長とがど

のように関連しているか、くわしいことは不明です。しかしこの中のいくつかについては考えてみることは出来ます。